

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト-「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会～できることからはじめよう～」参加者募集 及び 事例情報提供のお礼

JRRN では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。

これまでのニュースレターでもご案内させていただいておりますとおり、全国の小さな自然再生の担い手が集い、全国の取組みを共有し、今後の更なる推進に向けた議論を行う「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」を 2019 年 1 月 26 日（土）、27 日（日）に神戸にて開催致します。現在、サミットへ参加者を募集（定員 300 名）しておりますので、皆様のご応募をお待ちしております。また、本サミットのサイドイベントとして、1月27日（日）開催の「講習会 ～iRICで学ぶ 川の流（初級）～」も参加者を募集（定員 25 名）しており、こちらは定員が限られておりますのでお早めにご応募ください。

ニュースレター10月号で、「小さな自然再生」のデータベースの制作に向けて、事例情報の提供をお願いしておりましたが、

情報提供をいただいた皆様、誠にありがとうございました。提供いただいた事例を含む、15の事例を本サミットでご発表いただけることになりましたので以下にご紹介します。

イラストレーターのイザワイツハ氏、研究会メンバーの三橋弘宗先生のご協力をいただき、「これぞ小さな自然再生のイメージ」というのが一目でわかる、素敵なイラストを用いたサミットポスター（2・3頁）が出来上がりました。このポスターからも、私どものサミットへの本気が伺えると思いますので、皆様にも下記 URL よりダウンロードしていただき、広報のご協力をいただきたくお願い申し上げます。

■「小さな自然再生サミット」ポスター掲載ページ：

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/988.html>

なお、本活動は（公財）河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

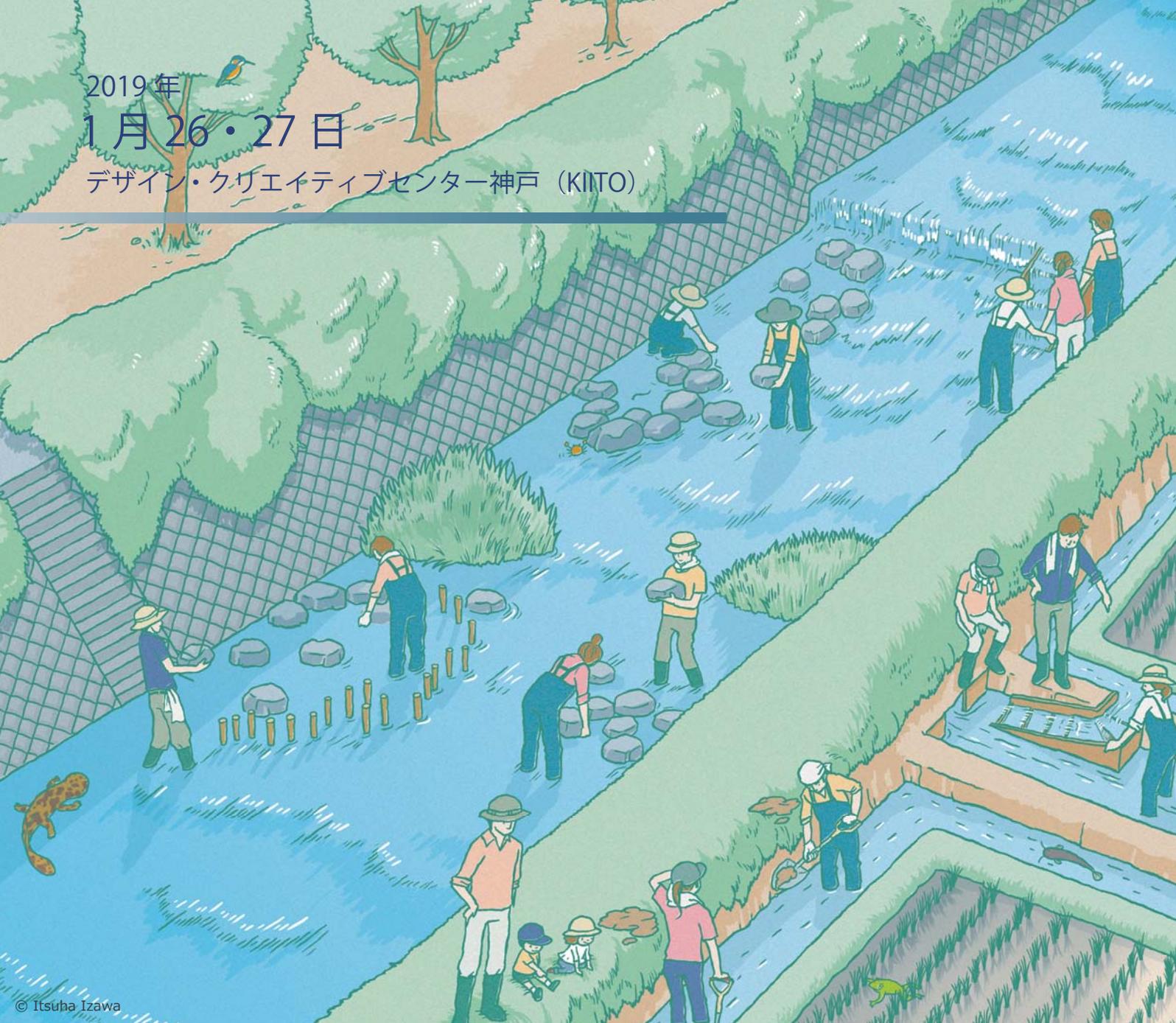
「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」発表事例（発表タイトル・団体）

- 【北海道】「よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性」・美幌博物館（駒生川に魚道をつくる会）
- 【秋田県】「小さな自然再生を活用した多自然川づくり職員研修の取組み」・秋田県建設部河川砂防課
- 【新潟県】「久知川におけるホテル復活の取組み～パーブ工の設置～」・新潟県佐渡地域振興局地域整備部
- 【愛知県】「地域と行政の共働で取組む岩本川での“ふるさとの川づくり”」・豊田市矢作川研究所
- 【岐阜県】「河川と農地をみんなでつなぐ『水みち連携事業』」・岐阜大学／岐阜県
- 【滋賀県】「琵琶湖・家棟川にピワマスを取り戻せ！～多主体協働による保全・再生活 動の推進～」・滋賀県琵琶湖環境科学センター
- 【京都府】「市民参加による鴨川の連続性の改善」・京都大学防災研究所水資源環境研究センター
- 【兵庫県】「住吉川における『水辺の小わが魚道』の取組みについて」・兵庫県神戸県民センター神戸土木事務所
- 【兵庫県】「都市河川『福田川』の高水敷におけるピオトープ作りの試み」・福田川グリーンクラブ
- 【兵庫県】「組立て式鋼製魚道の開発」・兵庫県立人と自然の博物館／成安造形大学
- 【岡山県】「魚もいない川なんて退屈すぎるぜ！～岡山・西粟倉村のクラウドファンディングによる挑戦～」・エーゼロ株式会社
- 【島根県】「大田市における『静間川天然アユ復活プロジェクト』について」・NPO 法人緑と水の連絡会議
- 【香川県】「一般市民による水辺の連続性回復を目指す可搬魚道開発の挑戦」・香川高等専門学校
- 【高知県】「手作り魚道の試行錯誤とモニタリングがもつ可能性」・Sakanayama Lab.
- 【福岡県】「『ぎょぶたんぼ』プロジェクト 2018～地域の生物多様性保全と自然体験の場を創出する試み」・NPO 法人北九州・魚部

2019年

1月26・27日

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)



© Itsuha Izawa

小さな自然再生サミット

～できることから始めよう～ 2019 神戸大会

1/26 (土) サミット @KIITO (1F ギャラリーA)

【定員】300名 (先着申込順です)

10:00 開場 (展示等の準備、参加者交流 ※自由来場)

13:00 サミット開会

開会挨拶：玉井信行氏 (東京大学名誉教授)

13:10 基調講演：島谷幸宏氏 (九州大学教授)

13:50 事例発表 ※発表事例は裏面参照

16:40 意見交換会

18:00 サミット閉会

18:30 懇親会 開会 (～20:00 @同会場)

※変更の可能性があります

【主催】「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

1/27 (日) 現地視察 @住吉川

“住吉川の『水辺の小わざ魚道』”

魚崎駅 (阪神電鉄) 改札前 9:00 集合～11:00 解散

【現地案内】

島本信夫氏 (特定非営利活動法人豊かな森川海を育てる会)

立川 伸氏 (兵庫県 神戸土木事務所)



河川
基金

公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。



※土木学会CPD認定プログラム (申請中)

発表事例

- 【北海道】「よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性」
 - 【秋田県】「小さな自然再生を活用した多自然川づくり職員研修の取組み」
 - 【新潟県】「久知川におけるホタル復活の取組み～バープエの設置～」
 - 【愛知県】「地域と行政の共働で取組む岩本川での“ふるさとの川づくり”」
 - 【岐阜県】「河川と農地をみんなでつなぐ『水みち連携事業』」
 - 【滋賀県】「琵琶湖・家棟川にビワマスを取り戻せ！～多主体協働による保全・再生活動の推進～」
 - 【京都府】「市民参加による鴨川の連続性の改善」
 - 【兵庫県】「住吉川における『水辺の小わざ魚道』の取組みについて」
 - 【兵庫県】「都市河川『福田川』の高水敷におけるピオトープ作りの試み」
 - 【兵庫県】「組立て式鋼製魚道の開発」
 - 【岡山県】「魚もいない川なんて退屈すぎるぜ！～岡山・西粟倉村のクラウドファンディングによる挑戦～」
 - 【島根県】「大田市における『静間川天然アユ復活プロジェクト』について」
 - 【香川県】「一般市民による水辺の連続性回復を目指す可搬魚道開発の挑戦」
 - 【高知県】「手作り魚道の試行錯誤とモニタリングがもつ可能性」
 - 【福岡県】「『ぎよぶたんぼ』プロジェクト 2018～地域の生物多様性保全と自然体験の場を創出する試み」
- 町田 善康氏・美幌博物館（駒生川に魚道をつくる会）
 児玉 光広氏・秋田県建設部河川砂防課
 岩崎 敏氏・新潟県佐渡地域振興局地域整備部
 山本 大輔氏・豊田市矢作川研究所
 原田 守啓氏・岐阜大学／＜調整中＞・岐阜県
 佐藤 祐氏・滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
 竹門 康弘氏・京都大学防災研究所水資源環境研究センター
 立川 伸氏・兵庫県神戸県民センター神戸土木事務所
 村上 健一郎氏・福田川グリーンクラブ
 三橋 弘宗・兵庫県立人と自然の博物館
 ／宇野 君平・成安造形大学
 岡野 豊氏・エーゼロ株式会社
 森山 俊信氏・NPO 法人緑と水の連絡会議
 高橋 直己氏・香川高等専門学校
 山下 慎吾氏・Sakanayama Lab.
 上野 由里代氏・NPO 法人北九州・魚部

お申し込み

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mail または FAX にて
 下記事務局までお申込み下さい。

申込み切日：平成31年1月18日（金） 17：00まで

氏名	_____
所属	_____
住所	_____
電話	_____
E-mail	_____

参加希望

1/26（土）サミット： 出席 欠席

懇親会（有料）： 出席 欠席

1/27（日）現地視察： 出席 欠席

※ に をつけて下さい

サミット会場へのアクセス



デザイン・
クリエイティブ
センター神戸
(KIITO)

神戸市中央区小野浜町 1-4
 TEL 078-325-2201
 J R 三宮駅から徒歩 17 分

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局（担当：後藤勝洋・和田彰）

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7 階

(公財) リバーフロント研究所内

Tel: 03-6228-3865 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)活動 – 2019年のARRN国際フォーラム開催予告

『第16回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』 2019年10月@ブリスベン

JRRN が事務局を担うアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の来年の年次行事『第16回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』が、2019年10月20日(日)～24日(木)にオーストラリア・ブリスベンで開催される第22回国際河川シンポジウムにおいて開催することが決まりました。

■第22回国際河川シンポジウム 案内ページ (英語)

<http://riversymposium.com/>

第22回国際河川シンポジウムの主テーマは「Resilient Rivers」。河川再生に取り組む産学官民の様々なセクターが参加し、各活動から得られた知見や教訓を共有する国際行事です。ARRN国際フォーラムの詳しい案内は年明けに改めてご案内差し上げます。



参加が期待されるセクター (国際河川シンポジウムHPより)

表 ARRN国際フォーラムの開催実績 (計15回)

回	開催年月	開催地	備考
1	2005.1	東京	ARRN 設立前準備会
2	2005.10	東京	ARRN 設立前準備会
3	2006.11	東京	ARRN 設立式典併催
4	2007.11	東京	単独開催
5	2008.11	北京	第4回 APHW 分科会
6	2009.9	ソウル	第5回 KICT ワークショップ 分科会
7	2010.9	ソウル	ISE2010 分科会
8	2011.11	東京	単独開催
9	2012.11	北京	単独開催
10	2013.9	成都	第35回 IAHR 大会 分科会
11	2014.10	ウィーン	第5回欧州河川再生会議 分科会
12	2015.4	慶州	第7回世界水フォーラム 分科会
13	2016.8	仁川	HIC2016 分科会
14	2017.8	カラジーン	第37回 IAHR 世界会議 分科会
15	2018.8	東京	ISE2018 分科会



第15回ARRN国際フォーラムの様子<2018.8@東京>

(JRRN事務局・和田彰)



22nd International
RIVER
SYMPOSIUM
EXCELLENCE – COLLABORATION – INTEGRATION

12月



あの日のあの川 リレー日記 ～第41話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第41話主人公 岡萌野

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：愛知県堀川)

「君は川が好きか？」

いつのこと？：小学生の頃

どこの川？：堀川

私は川が好きだ。車で川に掛る橋を渡って「川だああ！」と叫ぶのも好きだし、知らない街を歩いていて川を見つけると思わず近くによって水面を覗き込んでしまう。一方で、その川がなんて名前前の川なのかとかあんまり興味持ったことない。その川が、当たり前のようにその街の景観の一部になっていて、そこに住んでいる人にとっては身近で大切な川だったら、私にとっては名無しの川でもなんだかかっこいいではないか。

ということで、私にとって身近で、川と聞いて真っ先に思いついた地元の堀川について書こうと思う。

そもそも堀川は自然にできた川ではなく、江戸時代の初めに名古屋城の築城と同時に開削されたという。昔は鉄道などの物流手段が整っておらず、水運が発達した。花見など、人が集まる憩いの場でもあったという。しかし戦後に、水質汚濁が進み一時期は「死の川」とまで呼ばれたそうだ。

地元の川の思い出といえば川辺で水遊びしたとか釣りをしたとか、思い浮かぶ。しかし元「死の川」である堀川はそんなことができるような川ではなかった。川の近くに大きな公園があってそこで遊ぶ時は(ほぼ毎日だけ) 毎回堀川とご対面していたが、川の色は黒に近く水面は小さな泡がポコポコ出ている、夏場は近づくと

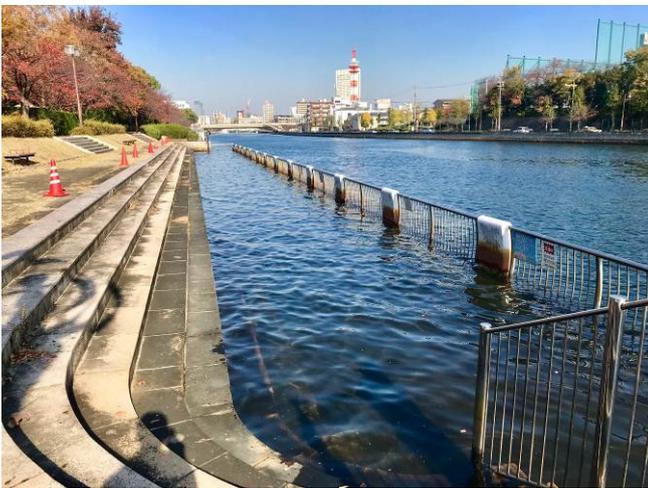


↑白鳥船着場

臭い時もあった。「堀川を超えた(橋を渡った)所には遠いからいたらダメだ」と親に言われていたこととか、或る日突然川の水位が上がりがいつも人が歩いているところまで水が来ていて「これが月の引かってやつか？」(潮の満干の理由を習ったばかりだった)とか思ったりしたことが、比較的印象に残っている思い出だろうか。

そんな堀川は学校の授業でも取り上げられた。地元の何かの団体のおじさんが学校に来て、前述したような堀川の歴史と、清流化に向けてヘドロを除去していること、水面に浮かんでいる泡はヘドロから発生しているガスだということなど教えてくれた。戦争の歴史も残っていたり。一番驚きだったのは、堀川にオオサンショウウオがいると聞いた時であった。オオサンショウウオは水のキレイな場所に生息するのになぜ堀川に！？…その理由は、生息が確認された場所が、地下水が湧き出していたり、地下水が放流されていたりと水質が比較的キレイだったからだとのこと。汚い堀川なのに、そこで生きてくれていてとても嬉しかった。ヘドロだけじゃないんだなと少し。

そんなことを思い出しながら、今堀川に来てみている。当時は何も意識していなかったけれど、兩岸には遊歩道が整備されていて自転車でも走りやすく、ジョギングしている人も何人かすれ違った。遊歩道を挟んで隣接している白鳥公園は、小さい子連れの親子や犬の散歩をしている人がちらほら。確か私もお母さんとここで昼ご飯食べたことあったなあと思い出した。で、一番川に近づける場所に来てみたら…！！！！



↑溢れる堀川

月の引力！！！！

まさかの今！そうそうまさにこんな感じ！普段は柵のところまで行ける。水がはけたばかりの時はヌルヌルと滑りやすく、スケート～とか言って遊んでいた気がしなくもない。本当に潮の満干が関係しているのかは謎だけれど、そういうことにしておく。

臭いもしなかった。その上、紅葉の時期終盤なので、公園の木々がとても綺麗で遊歩道を彩っていた。ちなみに春は桜並木になる。花見がてら公園でBBQをした覚えもある。最高だ。まさに川沿いは散歩やジョギングにもってこいである。1週間で終わったが、かつて私も朝川沿いをジョギングしていた。(終わった理由は決して川のせいではなく、走るやる気がなかったから。)

ちなみに夏は、熱田まつりという地元のお祭りで、花火が近くの球場で打ち上げられ、川沿いは人で埋まる。

私が知っているだけでこんなにも、堀川の魅力がある。当時は当たり前のように享受していたけれど、改めて考えるとなんていい街だろう名古屋市熱田区。その魅力の一つに堀川は入ると思う。

今でもオオサンショウウオは生きているのだろうか。どちらとしても、私にとって堀川はオオサンショウウオを生かした川だし、それだけでもなくなった。

通りすぎる人にとっては、なんでもない川。なんならドブ川。でもそこに住む人にとってちゃんと自慢できるかっこいい川になっている。だからやっぱり私は川が好きだ。



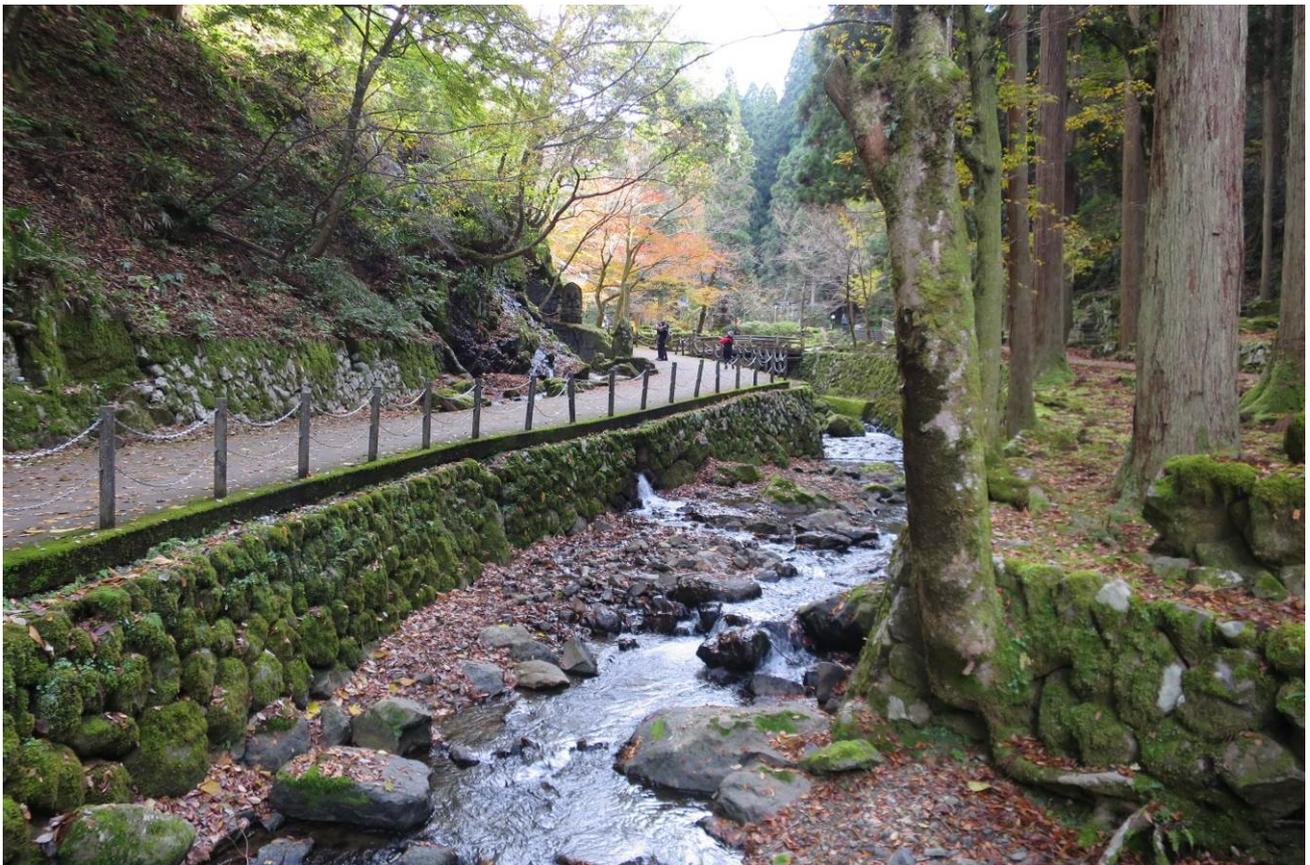
↑国際会議場を眺めながら毎日遊んでいた。めちゃくちゃ広くて遊び甲斐しかない。

(次号は2月号にて大泉達也さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.115

岡村幸二 (JRRN 会員)

人生は川の流れ： 永平寺修行僧の暮らしは 自然と対話をする一日



撮影：2018年11月（福井県吉田郡永平寺町・永平寺川）

◆奥深い愛宕山に抱かれて

日本の代表的な寺である曹洞宗永平寺は、寛元二年（1244）に道元禅師によって開かれたとされています。四方を山に囲まれた深山幽谷の地に、岩場を切り裂くように永平寺川が流れています。

◆永平寺の三大パワースポット

永平寺の唐門脇の道を川に沿って進めば、緑あふれる寂光苑や愛宕山公園があります。寂光苑には落差 15m の玲瓏の滝があり、いつも勢いよく水音が聞こえてきます。永平寺のパワースポットの一つです。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

河川書の探求(8)

多自然川づくり

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

1. 生物にやさしい川づくり

コンクリートで固められた川には生物は棲めない。コンクリート護岸の反省から生物にやさしい川づくりが進んでくる。例えば堤防の緩傾斜化、高水敷の樹木、草木類の活用、水辺のヨシの保全多段式及びスロープ式落差工、蛇籠、巨石等多様な空隙構造をもつ材料の活用などの工法である。

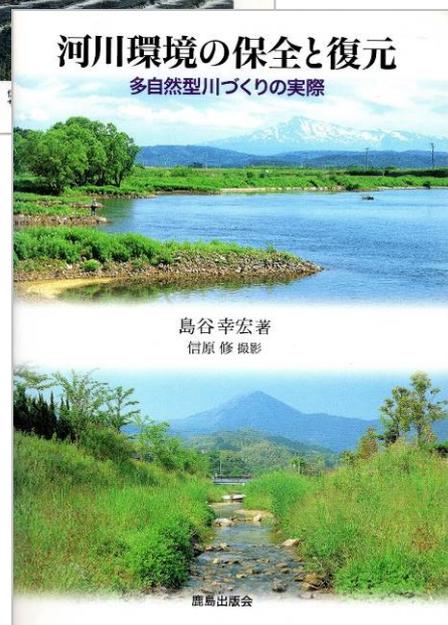
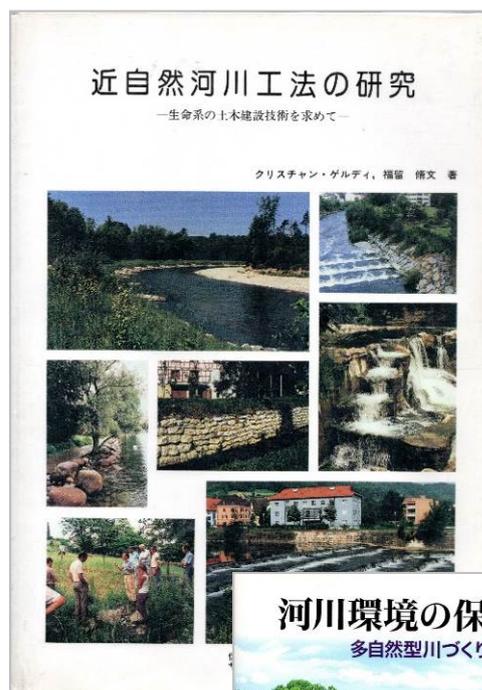
ニュアンスは異なるものの、この川づくりは多自然型河川工法、近自然河川工法、あるいはビオトープ河川工法と呼ばれている。

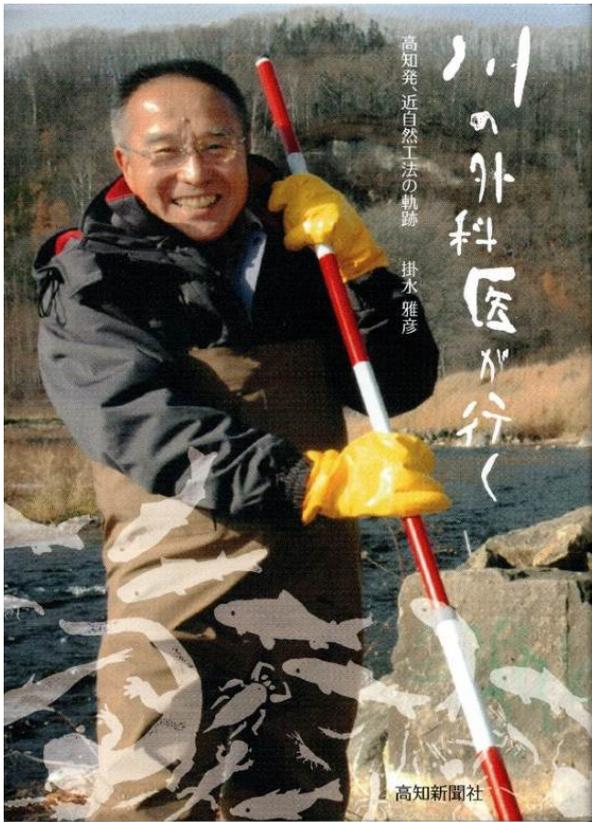
1990(平成2)年11月、建設省河川局から「多自然型川づくり実施要領」の通達が出された。「多自然型川づくりとは、河川本来の有している生物の良好な生育環境に配慮し、あわせて美しい自然景観を保全あるいは創出する事業をいう」と定義する。

河川の復権をめざす書として、TAMA らいふ 21 協会編・発行『近自然型河川工法スイス・ドイツの事例 河川空間利用方法イギリスの事例』(平成6)、多自然川づくり研究会編『多自然川づくりポイントブックー河川改修時の課題と留意点』(リバーフロント整備センター・2007)を掲げる。

2. やさしい川づくりの導入

この川づくりの考え方は、愛媛県五十崎町「町づくりシンポの会」の人たちが、1985(昭和60)年にスイスの川を観察して日本へ導入始まりである。スイスの川づくりを訪ねたクリスチャン・ゲルデイ・福留修文共著『近自然河川工法の研究』(信山社サイテック・1994)、バイエル州内務省建設局編『道と小川のビオトープづくり』(集文社・1993)、多自然型川づくりの施工例を掲げた島谷幸宏著『河川環境の保全と復元』(鹿島出版会・2000)、清らかな川を甦えさせたいと願う福留修文著『近自然の歩みー共生型社会の思想と技術』(信山社サイテック・2004)がある。





掛水雅彦著『川の外科医が行く－高知発、近自然工法の軌跡』(高知新聞社・2011)では、近自然工法の魁者福留修文の施工河川を追っている。豊田市の児ノ口公園、高知市境の吉原川、高知県津野町の四万十川支流北川川は近自然工法により河川が見事に復元された。

3. 大地の川

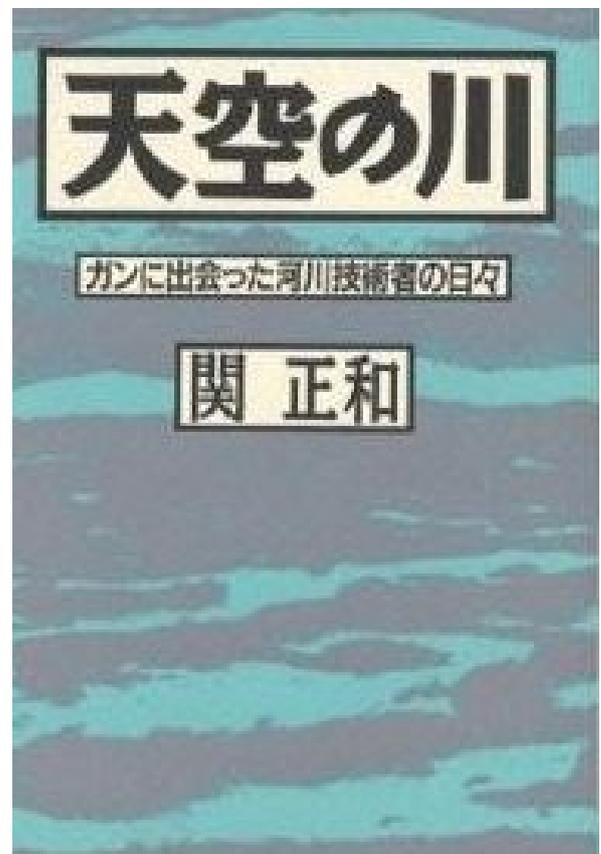
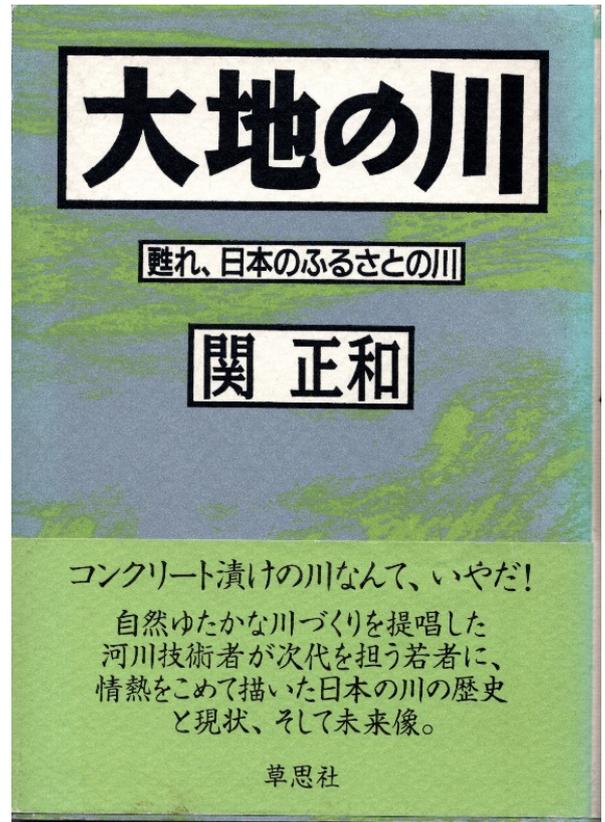
河川行政の立場からの関正和著『大地の川－甦れ、日本のふるさとの川』(草思社・1994)で、多自然型の川づくりの理念として、次のように述べている。

「われわれ人間は招かれた客としてこの自然を訪れている。したがって、人間の都合で勝手気ままに自然を改変してはならない。自然の改変は必要最小限にとどめ、改変する場合にも別の形で自然を復元し、あるいは創出する努力をすべきである。それが人間と自然の調和ある共存を可能とする」と論じる。

関正和は、河川哲学を持っている人だった。

残念ながら、彼は 47 歳の若さで平成 7 年 1 月逝去された。

同著『天空の川－ガンに出会った河川技術者の日々』(草思社・1964)の書がある。



JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2018年11月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 水循環シンポジウム 2018～全国に広がる水のネットワーク～ (12/10 開催)

公益財団法人リバーフロント研究所より、12/10 (月) に東京で開催される水循環シンポジウムのご案内です。

水循環に関する取組をより広がりのあるものとするため、「全国に広がる水のネットワーク」をテーマに実践者の皆様をお招きして事例紹介とポスターセッション(地域の PR 展示)を行います。従来の手法にとらわれない新たな取組とここでしか得られない推進のヒントを皆さんと共有し、水の



- 日時：2018年12月10日(月) 13:30～16:30
 - 会場：トラストシティカンファレンス・丸の内
 - 主催：内閣官房水循環政策本部
 - 参加費：無料
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3271.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ フォーラム『地域計画と自然環境保全 (12/9 開催)』

東邦大学理学部野生生物保全研究センター等が主催する市民フォーラム『地域計画と自然環境保全』のご案内です。自然の保全・活用についての住民意見や科学的知見を地域計画に反映させる意義や方法について考えます。市民・学生・行政・コンサルタント・研究者、立場を超えて議論しましょう。



- 日時：2018年12月9日(日) 14:00～17:00
 - 会場：東邦大学理学部 5号館 5101 教室
 - 主催：東邦大学理学部 野生生物保全研究センター他
 - 参加費：無料
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3266.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」 (11/9～12/23 開催)

JRRN も協力する水の巡回展ネットワーク (JAWANET) 企画製作の巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」が荒川知水資料館(amoa) で開催中です。名古屋、大阪に続く東京での初開催展示、是非皆さまも足をお運び下さい。



- 開催場所：荒川知水資料館(amoa) ※入館無料
 - 開催期間：2018年11月9日(金)～12月23日(日)
 - 開館時間：平日 9時30分～17時00分
土日祝 10時00分～17時00分
 - 休館日：月曜日(祝日除く)、祝日の翌日
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3258.html>

【海外からの提供情報】

■ RRC (英国河川再生センター) 最新会報ご紹介



RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2018年10月号) が RRC 事務局より届きました。

本号では、来年の RRC 総会の論文やスポンサーの募集案内、ワイルドサーモン保全アワード受賞者、また RRC が主催する行事等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3255.html>

会議・イベント案内 (2018年12月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第6回流域管理と地域計画の連携に関するワークショップ

- 日時：2018年12月11日(火) 14:00-17:30
 - 主催：土木学会流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
 - 場所：土木学会講堂（東京都新宿区）
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2889.html>

■“いい川”づくり研修会 in 福井 ～“いい川”づくりと災害復旧の方策

- 日時：2018年12月11日(火) 10:00～16:30
 - 主催：NPO 法人全国水環境交流会
 - 場所：福井県国際交流会館 3F 特別会議室（福井県福井市）
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2891.html>

■第1回小さな自然再生サミット 2019 神戸大会

- 日時：2019年1月26日(土)～27日(日)
 - 主催：「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
 - 場所：神戸デザイン・クリエイティブセンター（兵庫県神戸市）
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/934.html>

■第十四回「外来魚情報交換会」

- 日時：2019年1月26日(土)～27日(日)
 - 主催：琵琶湖を戻す会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク
 - 場所：草津市立まちづくりセンター 3階（滋賀県草津市）
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2877.html>

■講習会 ～iRICで学ぶ 川の流れ（初級）～

- 日時：2019年1月27日(日) 9:30～15:00
 - 主催：「小さな自然再生」研究会、JRRN
 - 場所：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）3F 301会議室（兵庫県神戸市）
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2901.html>

■第12回淡海の川づくりフォーラム

- 日時：2019年2月3日(日) 9:30～16:30
 - 主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会
 - 場所：滋賀県危機管理センター（滋賀県大津市）
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2899.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 (JRRN 会員著作の新刊案内) *Publications*

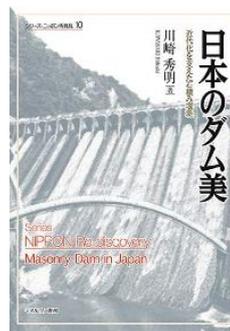
■「川に生きる 世界の河川事情 (2018.9)



本書は中日新聞・東京新聞で3年間に渡り連載されたコラム「川に生きる」を書籍化したもので、多様な生物が息づく川と人との関係が描かれています。

- 書名：川に生きる 世界の河川事情
- 著者：新村安雄（JRRN 会員）
- 頁数：192
- 発刊日：2018年9月14日
- ISBN：4806207489, 978-4806207481
- 定価：¥1,404
- 出版社：中日新聞社

■日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤 (2018.10)



本書では、「石積みダム」の歴史・分類や背景、また石積み堰堤目録からダムの雑学まで、その魅力が存分に語り尽くされています。

- 書名：日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤
- 著者：川崎秀明（JRRN 会員）
- 頁数：320
- 発刊日：2018年10月
- ISBN：9784623083121
- 定価：¥2,376
- 出版社：ミネルヴァ書房

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。（JRRN 会員限定）

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

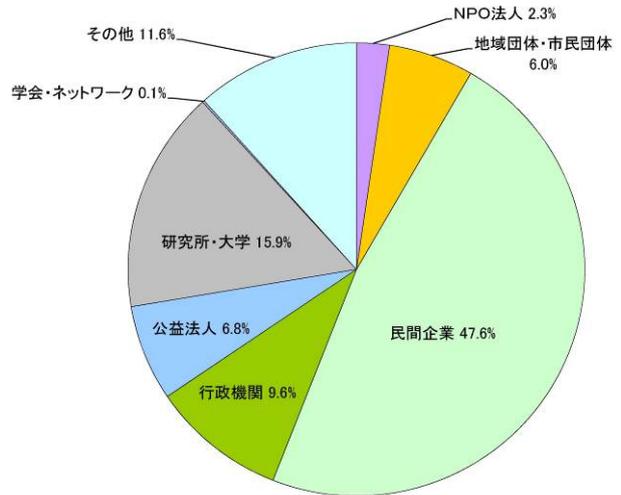
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年11月30日時点の個人会員の所属構成
 (個人会員数：790名、団体会員数：60団体)
 ※11月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

